

# 実施結果報告書



## 広島平和記念式典派遣事業

2011年8月5日(金)～7日(日)



燕市

## 目 次

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・ 1 頁

研修レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 頁

三日間の日程

研修の記録

学びの記録

学びの発信

派遣事業の概要など・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15 頁

派遣事業の概要

派遣事業参加中の役割分担

話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開

広島平和記念式典派遣事業行程表・・・・・・・・・・ 18 頁

資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19 頁

非核平和都市宣言

## 広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

広島・長崎の被爆の悲劇から、今年で66年が経ちました。年月とともに、戦争を知らない世代も増え、悲惨な記憶も風化しつつあります。そして、今、日本は、東日本大震災という未曾有の大災害を受けながらも、数々の困難を乗り越えながら一歩ずつ、復興再建への道を歩み始めようとしています。

しかし、世界に目を転じてみますと、地域紛争や戦争、あるいはテロ行為によって、今なお多くの人々の尊い命が失われています。

燕市は、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。この宣言は、平和を愛する世界の人々とともに核兵器の廃絶と非核三原則を強く世界に訴え、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願って行ったものです。

非核平和は私たち人類の普遍的な願いです。世界でただ一つの被爆国の国民として、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、後世に永遠に語り継いでいくことが大切であると実感しております。

広島へ燕市立の5つの中学校から生徒代表を派遣しているこの事業も、平成20年度から数え、今年で4年目となりました。

生徒たちは「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」へ出席するとともに、各学校の全校生徒が平和の祈りを込めて、また戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りして折った千羽鶴を「原爆の子の像」に捧げてきました。また、広島平和記念資料館、原爆ドーム及び原爆供養塔などの見学、被爆体験講話の受講、並びに灯籠流しへの参加も体験してきました。生徒たちは直接目と耳で学び、感じてきたことを通して、「命の尊さ」や「平和を愛する心」を学んだことと思います。

今後は、各学校において報告会その他の事後研修を実施し、代表者が学んだことを生徒たちみんなに伝え、平和の大切さを共有し、さらに次の世代へ受け継ぎ、伝えていっていただけるものと思います。

終わりに、今回の事業実施に際しまして多くの方々からご協力いただいたことにつきまして、心からお礼を申し上げます。

## 三日間の日程

### 1日目 8月5日(金)

出発式(吉田庁舎)	7:00 ~ 7:30
移動(燕三条から広島)	8:11 ~ 14:15
木松旅館	14:30 ~ 15:20
平和記念公園	15:30 ~ 17:00
・千羽鶴奉納(原爆の子の像)	
・公園内見学	
木松旅館	17:45 ~
被爆証言講話	17:50 ~ 19:20
夕食	19:30 ~
ミーティング	20:00 ~



### 2日目 8月6日(土)

木松旅館	~ 6:40
広島平和祈念式典参加	8:00 ~ 8:45
・原爆死没者名簿奉納・献花、黙とう・平和宣言(広島市長)	
・平和への誓い(子ども代表)・来賓あいさつ・平和の歌(合唱)	
ひろしま子ども平和議会見学	10:00 ~ 11:40
広島城見学	13:30 ~ 14:30
広島平和記念公園	14:30 ~ 17:00
原爆死没者慰霊碑参拝、企画展見学	
木松旅館(夕食)	17:30 ~
灯ろう流し参加	18:30 ~ 20:00



### 3日目 8月7日(日)

木松旅館出発	~ 7:10
市内見学(厳島神社)	7:30 ~ 11:35
移動(広島~燕三条)	11:44 ~ 18:03
解散(燕三条駅)	18:10



## 研修の記録（事前学習）広島原爆投下の歴史的背景

### 太平洋戦争のはじまり

長引く日中戦争でいきづまり、アメリカなどから経済的に圧迫されていた日本は、戦争に必要な石油やゴムなどの資源を確保しようとして、東南アジアを侵攻した。

それに対し、アメリカは日本への石油輸出禁止にふみきる。

また、中国全土とインドシナからの日本軍の撤退と、日独伊三国同盟の否認などを要求した。

この条件は日本にとって受け入れられるものではなく、最後通牒だった。

そして、御前会議で日本政府と軍部はアメリカ、イギリス、オランダとの戦いを決定した。

### 広島原爆投下

ポツダム宣言（日本の即時無条件降伏することをすすめた）に対して、日本は天皇の身分についての保障がないことにこだわり、黙殺した。ポツダム宣言黙殺後すでに原爆実験は成功していた。アメリカは世界、とくにソ連に原爆の威力を誇示し、膨大な国家予算をつぎこんだ成果を米国民に納得させ、引き続き核兵器開発の必要性をみとめてもらうためには、どうしても対戦中に原爆を使用するべきだと考えていた。

日本が目標になった理由は、ドイツと違い原爆開発の能力や放射能兵器を保有する可能性がないため、もし爆弾が不発の場合でも技術を盗まれる危険性がなく、放射能兵器による報復攻撃の可能性がないと考えたからだ。選考の基準は、大勢の従業員が働いている重要な軍需工場があり住宅がたくさんかたまっているところ、爆発の威力が十分発揮され、その成果が観測しやすく、できるだけ未破壊の都市であること。なかでも広島は捕虜収容所がないため第一目標とされた。

8月6日、広島の天候が良好と報告がはいり、この瞬間、広島の運命は決定した。



## 学びの記録（参加中学習）ひろしま子ども平和議会等

### サダコと折鶴

佐々木禎子さんは、2歳の時に被爆したが無傷。

その後運動会のリレーの選手で活躍するなど元気で活発な少女に成長。ところが、小学校6年生の秋に突然発症し白血病と診断された。

折り鶴を千羽折れば病気が治ると聞いた禎子さんは薬の包み紙などで鶴を折り続けましたが、その願いもかなわぬまま8ヶ月の闘病生活の後、短い生涯を終えた。



この悲しい知らせを聞いた同級生たちが中心となって禎子さんをはじめ原爆で亡くなった子どもたちを慰霊し、平和を守るための記念の像を作ろうと呼びかけた。各地から寄せられた募金によって「原爆の子の像」完成。

禎子さんの物語は各地で出版され、今も世界中の子どもたちに原爆のおそろしさを訴え続けている。

#### 原爆の子の像 ～感想～

原爆は罪のない子どもたちを苦しめてひどいなあと思った。私たちが折った鶴で、世界に平和がおとずれてほしい。



#### ひろしま子ども平和会議

8月6日に広島に集う子どもたちが“核のない輝く未来のために”“争いのない平和な世界のために”“平和への願いを折り鶴に託して”のテーマに沿って、平和への思いを言葉や音楽など様々な形で発表!!!

#### 平和のために自分ができること

- ・住む町のつながり、友人や家族を大切にする。
- ・いじめを許さない
- ・広島に行ってきた学んだ事を伝える!! 平和を伝えていく!!!

平和会議に参加して、自分が今できることをしていきたいと思った。

戦争のつらさ、原爆のおよぼした影響を知り、これからいろんな人に伝えていこうと思う。

## 学びの発信（参加後報告）平和の尊さ

千羽鶴を奉納したあの日から数日たった今、ふり返るととてもいい経験をしたんだなあとしみじみ思います。

広島について学んだ平和資料館では、原爆が及ぼした影響を身近に感じる事ができました。今、私たちは平和に幸せに暮らしています。66年前の子どもたちは、原爆によって命をうばわれたと思うと悲しいです。だから、平和に暮らすだけでなく戦争について深く知り、私の周りの平和に感謝していこうと思いました。

広島へ行き、平和の尊さを強く感じました。これから、平和のために住む町のつながりや友達や家族を大切にしていきたいです。また、今回の体験を心に深く刻んで生きていこうと思います。

## 研修の記録（事前学習）第二次世界大戦の戦時下の生活

### 日用品と食糧

国家総動員法以降、軍需品の生産は飛躍的に増加。

これを補うために自家用車や贅沢品などの生産や輸入が抑えられた。また、戦時下において団結や地方自治の進行を促し、住民の動員や物資の供出、統制物の配給、空襲での防空活動などを行うことを目的に、1940年に「隣組」制度が導入された。しかし、料亭などの営業は通常通りに行われた。1941年には米など一部の食料が配給制となった。1944年になると、食料の生産や魚類の生産、配給量も急激に減り、窮乏生活を余儀なくされ闇取引が盛んになった。

### 国民の動員

1945年、アメリカ軍やイギリス軍から攻撃が加えられるなど、戦争の災禍があらゆる国民に及ぶようになった。空襲による発電所の破壊など停電が増えたほか、爆撃などによる鉄道の遅延も相次いだ。徴兵年齢に達した多数の男性が徴兵されたために医師の数が不足し、医師不足対策が実施されることも。

他にも、学徒動員が実施されたり、学生や女性が工場に動員された（勤労働員）。勉強はこの時は中断となる。これらは、台湾や朝鮮でも行われた。右の写真は飛行場で働く女学生である。



### 教育

小学生は「少国民」と呼ばれ、小学校でも基礎的な軍事訓練を受けるほか、欧米諸国同様に戦争や軍隊への親近感を抱かせるような教育が行われた。1941年の国民学校令に基づいて国民学校が設立された。空襲により、1944年には学童疎開が開始された。

### スポーツ・遊び

高校野球は英米戦の開戦後の1942年から開催が中止されたが、プロ野球は1944年の夏まで開催されていた。

子どもの遊びに戦争の影響があらわれ、戦争を題材にした紙芝居や漫画、玩具などが出回った。戦争ごっこもはやった。

## 学びの記録（参加中学習）広島平和記念公園

元安川と本川にはさまれた平和大通り以北と原爆ドーム周辺を合わせた広さは約12.2ヘクタール。このあたりは被爆前は繁華街であった。劇場や飲食店、旅館などが日夜にぎわい、多くの人々が暮らしていた。しかし一つの原子爆弾によって壊滅してしまった。戦後、世界に向けて人類の平和を願い訴える目的と過去の過ちを繰り返さないためと爆心地から近いことから現在の位置に建設された。



毎年8月6日には平和記念式典が開催され国内外から多くの人々が集まってくる。普段は観光地とされており、春は桜の名所としても人気がある。さらに国内外から寄せられた約40種類、1200本の樹木が植えられている。

私は原爆ドーム、資料館、祈念館など見てまわった。その他千羽鶴を奉納。平和記念式典に参加し、慰霊碑に参拝した。夜は灯籠流しに参加し、平和のメッセージを書いて灯籠を流した。また爆心地をみた。米軍は相生橋に原爆を落とそうとしたが、ずれてしまい、島病院の上に落ちたそうだ。この公園内には池や噴水など水が多くあった。その理由は被爆当時被爆者たちが水を欲しかったため、水を与えるという意味で作られていた。他にも意味があって作られている場所があり、本当に原爆によって亡くなった人達の事を考えて建設されたんだと思った。自然に包まれていて心身に安らげるような不思議な場所のように感じた。



## 学びの発信（参加後報告）広島派遣事業で学ぶ

僕は原爆を落とされた地、「広島」に行って当時何があったかを自分の目で確かめてきた。平和記念公園では、まず原爆ドームを見た。レンガとコンクリートでできた原爆ドームは当時、大破・全焼し、今でも一目見るだけで原爆の破壊力が伝わってきた。次に資料館を見学。そこでは被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真が展示されていた。資料一つ一つから被爆者の悲しみや苦しみ、怒りが伝わってきた。資料の説明を見ると、本当に原爆はすさまじいものだったことがわかった。また、その他に千羽鶴を奉納したり、平和記念式典と灯籠流しにも参加した。奉納された千羽鶴の数や、式典と灯籠流しの参加人数を見て、世界の平和を願う人々の思いが伝わってきた。

被爆体験をされた方の話で「平和の原点は仲良くすること」と教えてもらった。「人々が仲良くなるには、まず自分が自分の周りの人と仲良くする。それが広がれば世界はきっと平和になるはずだ。」と言われていました。僕はこの言葉を大事にして日々過ごしていこうと思った。

六十六年前の夏に日本に落とされた原子爆弾は、多くの人の命を奪い、生活も未来も全て破壊した。そしてたくさんの方の犠牲の上に今、日本は六十年以上も戦争をすることなく、平和を享受してきた。この「平和」を、私たちは守り続けていかなければならないことを決意した。





## 研修の記録（事前学習）今、世界のどこかで起きている戦争

戦争とは、開戦から休戦までの状態。通常は国家間の戦闘行為。

また、起こる主な原因としては国境の争い、民族問題、経済問題が主要問題。

**今も続いている戦争 2000年～2008年**

2000年（継続）	インドネシア紛争
2001年	アメリカのアフガニスタン侵攻（対テロ戦争）
2003年	イラク戦争
2004年	ワジリスタン戦争
2006年	スリランカ内戦
2006年	イスラエルのガザ侵攻・レバノン侵攻
2008～2009年	イスラエルのガザ紛争

最近起こった戦争である。紛争を含めるともっと多くあるだろう。

また、冷戦後は民族、宗教の対立による内戦が世界各地で勃発するようになった。

**戦争をなくすために個人が起こせる行動**

僕はこの世から戦争をなくすために、まずは、自分が戦争について知ることだと考えています。そして、現在に世界大戦がおこったら、地球は簡単に壊れると思います。だから世界の戦争の原因を皆が知り、世界が平等になることが重要だと思います。

## 学びの記録（参加中学習）広島平和記念式典

**平和式典の様子**

式典には日本の総理大臣、67カ国の代表者、被爆者と親族、一般の多くの人が参列していました。そして、日本に原爆が落とされて66年たった今も、多くの人が参列して、広島悲劇を二度と起こさない、平和の大切さを確かめていました。私も世界中で平和のために「紛争、戦争をなくそう」と改めて思いました。



しかし、67の国の中にアメリカはありませんでした。そのことが少し疑問でした。

**平和への誓い**

私の心に最も残ったのは「戦争を始めるのは人間です。」「未来をつくるのは人間です。」

という言葉です。今なお、世界中で紛争戦争が続いています。戦争を始めるのが人間なら、世界中で協力すれば人間の力で戦争を止められると思いました。そうすれば、平和な未来が待っているとこの言葉を通して考えました。この式典は平和について改めて気付かされる貴重な機会となりました。

## 平和の灯



建立の目的：核兵器廃絶と世界平和のため。

この灯は1964年8月1日以来ずっと燃え続けます。**核兵器が世界中から消える日**にこの灯は消えることになっています。また、反核悲願の象徴ともなっています。

式典を通して、世界各国から多くの方々が参加されることは、とても意義深いことだと思いました。

そして、世界中の人々が日本に落ちた原爆について学び、核廃絶のために努力しなければならないと感じました。また日頃は平和について考える機会がない中で、平和の大切さを改めて感じることができました。大変ありがとうございました。

## 学びの発信（参加後報告）

一番に印象に残っているのは被爆した方の講話です。ある程度は想像していましたが、それをはるかに超える内容でした。戦時中の厳しい生活もそうでした。都市では食料が不足し、他人の家の食料を食べたりしていたそうです。

そうまでしなければ生きていけないことに戦時中の苦しさを感じました。広島に原爆が落とされた理由にも驚きました。アメリカの実験目的だということにとっても心が痛くなりました。社会科の授業で原爆について学習しましたが、実際に被爆された方に聞いて世界中からの核廃絶のために活動したいという思いを強くしました。

この派遣事業では式典以外にも多くのことを見て聞いて、原爆、戦争の恐ろしさや、世界の人々の協力の必要性を改めて学ぶことができました。戦争の悲惨さなどを、多くの人に伝えたいです。とても良い機会になりました。



## 研修の記録（事前学習）原子爆弾の被害・惨状

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分に広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けました。

投下後、爆発とともに強烈な熱線と放射線が四方へと放射されるとともに、周囲に空気が膨張して超高圧の爆風となって大きな被害となりました。

広島に落とされた原子爆弾

重さ：4トン、長さ：3m、直径：0.7m

※ TNT火薬に換算すると約1万6千トンの爆発エネルギー。



### 被害

死亡者数は1945年12月末までに、約14万人の人が死亡し今もなお放射能によって苦しんでいる人がいます。

### 建物の被害

原爆は市街地のほぼ中央で爆発したため被害は市の全域に及び、建物の90%以上は破壊、焼失しました。

### 熱線による被害

原爆は爆発と同時に100万度を超え、空中に発生した火球は最大直径280mの大きさとなりました。この火球から四方に放出された熱線は3000度～4000度にもなりました。鉄は約1500度でとけるので、ものすごい被害があったことがわかります。

### 広島では

このものすごい被害をもたらした原子爆弾がなぜ広島に投下され、市民の人にどれほどの被害をもたらしたかを詳しく見て、戦争をなくすための気持ちを強めたいと思います。

## 学びの記録（参加中学習）平和記念資料館

平和記念資料館には1945年8月6日に広島に落とされた原子爆弾の被害者の遺品、爆発の惨状を示す写真や資料が数多く展示されています。また、広島の被爆前後の時代状況が紹介されています。

本館では被爆資料や遺品を展示し1945年8月6日の広島で何があったのかを強く訴えています。

広島に落とされた原子爆弾は爆発とともに3000度～4000度の高熱と数十万気圧にもなる高圧の爆風で広島市を壊滅的な状況にしました。そして、たった一つの爆弾で約14万人もの命を奪ったのです。

爆風と熱線により火の手が上がり天を焦がす勢いで燃え続けました。これにより半径2キロメートル以内の地域は無惨に焼失し廃墟となりました。そして大量の放射線が出され人体に深刻な障害をあたえました。外傷が全くなくても被爆したために、数ヵ月後に死んでしまう例が多くありました。放射能による影響は発熱、吐き気、下痢などだけでなくその後も長期にわたって様々な障害を引き起こし、被爆者の健康を今もおびやかしています。また火傷が治った後に皮膚が盛り上がるケロイド症状が現れ被爆した後も傷跡を残していたのです。



特に印象に残ったのが左の写真にある遺品です。無邪気に遊んでいた子供が原子爆弾によって一瞬にして命を奪われ鉄カブトと三輪車がとても無惨な状態となって残っています。

小さく尊い子供の命も奪った原子爆弾は二度と使ってはいけないという思いがとても強くなりました。

そして戦争の悲しみが繰り返されないように平和な世界になってほしいと思いました。

右の写真は強烈な熱線によりバルブの影が焼きついている写真です。原子爆弾が一瞬にしてものすごい熱を出したことが良く分かります。



上の写真はガラス瓶です。高熱のため変形しています。鉄が溶ける温度は約1500度ですが原子爆弾はその2倍以上もの熱がありました。また、石段の上に座っていた人の影が焼きついているものもありました。

#### 資料館に行つて

僕は資料館へ行って数多くの遺品や資料を見てきました。激しい熱風によりビリビリに裂かれた服、ヤケドによって皮膚が溶け苦しんでいる写真・・・など、どれも原子爆弾の脅威と戦争の悲しさが伝わってくるものばかりでした。ですがまだ世界では戦争があります。核兵器があります。このような惨劇を繰り返さないためにも、戦争をなくして核兵器が二度と使われないような平和な世界になってほしいと思いました。

そのためには一人一人が戦争の恐さをしっかり意識して団結することが大切だと思います。

## 学びの発信（参加後報告）広島で得たもの

僕は8月5日から7日までの3日間広島に行き、1945年8月6日に投下された原子爆弾について多くの事を学んできました。

広島に行き、特に印象に残ったのは平和記念資料館です。平和記念資料館には原爆の被爆者の遺品、被爆の惨状を示す資料や写真が数多く展示されています。資料館を見ると強烈な熱により人の影が焼きついている石段、すさまじい爆風によりビリビリにさかれた学生服など、どれも原爆の恐ろしさと脅威が伝わってきました。



そして最も心に残ったのは被爆した三輪車です。無邪気に遊んでいた子供が原爆によって一瞬にして命を奪われ、三輪車はとても無惨な状態となっています。小さく幼い子供の命も奪った原子爆弾は二度と使ってはいけないという思いが強くなりました。

最後に、広島で被爆体験講話を聞いたとき被爆された寺本さんが「平和の原点はみんなで肩をよせあうこと。」と言っていました。ですがまだ世界には戦争があり、核兵器があります。日本で起こった惨劇を繰り返さないためにも戦争をなくして、核兵器が二度と使われないような平和な世界になってほしいと思いました。そして寺本さんが言っていたようにみんなで肩をよせあい、世界中が仲良くできるようになってほしいと思います。



## 研修の記録（事前学習）被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

### 8月6日原爆投下直後

- 原爆が投下された時の町の様子は？
- 沢山の方々の遺体を見て思ったことは何ですか？
- 原爆投下直後に何をしましたか？
- 原爆投下直後にどこへ逃げましたか？
- 防空壕は各家庭に準備されていたのですか？
- 原爆は今まで投下されていた爆弾とは全く違ったのですか？



### 戦後

- 戦争を通して学んだことは何ですか？
- 戦争中、戦争後どのようなものを食べ生活していたのですか？
- 戦後不便だったことは何ですか？
- 15日の日ラジオで玉音放送を聞き、戦争が終わりどう思いましたか？

### 8月7日～15日の間

- 川には死体がたくさんあったと思いますが、水はどうやって飲んだのですか？
- 食糧などは何を食べていたのですか？
- 投下直後（6日～15日）の間はずっと防空壕の中にいたのですか？それとも外や家にいたのですか？
- 町の様子は戦争前夜で一変したと思いますが、建物などは何か残っていませんか？

### 現在

- 日本に原爆を投下したアメリカをどう思っていますか？
- 今戦争を行っている国をどう思っていますか？
- 戦争を体験し、原爆について考え方は変わりましたか？
- 今の日本は核を持っていませんが、これこそが本当の平和であると思いますか？



## 学びの記録（参加中学習）被爆証言講話

講師：寺本たかしさん（77歳 当時小学校5年生）

### 8月6日原爆投下の日～15日までの間・戦後

8月6日 午前7：09 警報  
午前7：31 警報解除 → ※一般市民は安心  
～広島県は8月6日雲ひとつ無く晴天～  
午前8：15 広島に原爆投下

※寺本さんは警報解除で中学校1年生と小学校2年生の子と外で遊んでいた。  
中学校1年生の子は、原爆投下直後皮膚がはげて垂れ下がっていて  
2、3日後亡くなる。

小学校2年生の子は、原爆投下直後即死。  
寺本さんの母親と寺本さんは自宅で被爆  
寺本さんの母親は、7日に発見。  
足首の火傷だけだったが衰弱し8月15日に亡くなる。  
寺本さんは家の中で、鉛筆ではがきに宛名書き中。  
家は原爆でつぶれたが下敷きにはならず近所のおばさんにおぶってもらい避難。  
寺本さんは顔中血だらけ。  
おぶってくれたおばさんは黒い雨にうたれ2ヵ月後に亡くなる。



投下直後…半径2km以内はすべてのものが燃え

臭さは何とも言えぬ臭さ

爆心地に近いほど原爆投下直後の音を聞いた人がいない。

食料は投下直後から不足

えんぴつ・服などはお姉さんやお兄さんなどのお古

ご飯の中には米だけでなく大豆やイモ類

男女関係無く畑などからイモや豆をとって食べた

水は雨水・川の水すべてを飲んだ

川の水を飲むことで即死 → 被災者はホッと安心して緊張感がとけなくなった

水を飲ませない → 亡くなる

飲ませても飲ませなくても亡くなってしまった。

現在

平和の原点 → 「誰とでも仲良くすること」

→ 「いじめ・差別」バツ



## 学びの発信（参加後報告）

私は広島平和記念式典派遣事業に参加して様々なことを学びました。その中でも特に被爆体験者の方の話が印象に残っています。

私たちに話をしてくださったのは寺本たかしさん、原爆投下により母を失いました。広島に投下された原爆により寺本さん自身も、体中に傷ができ、その傷は今でも消えることはないそうです。当時の出来事を思い出して語る事はつらいのに、一生懸命私たちに話をし



てくださいました。そんな寺本さんの思いを、聞いた私ができること。それは、当時の人々の痛み、苦しみ、なんと言っても原爆のおそろしさを周りの人たちに伝えることだと思います。今幸せな生活が送れることに感謝するとともに、今後核で苦しむ人がいなくなることを願います。



## 学びの発信 (参加後報告)

未来を担う若者たちとともに・・・

平成23年8月6日, 午前8時15分。

世界が止まってしまったかのような圧倒的な静寂の中, 燕市を代表する5名の中学生 (未来を担う若者たち) とともに, 5万人の参列者の中の一人として1分間の黙とうを捧げた。

短い時間の中であったが, 多くの想いが去来していた。多くの犠牲の上に今の平和があり繁栄があるという日本, その平和な日本で生まれ育ち, 66年前の惨禍の現場で慰霊の祈りを捧げている自分……。しかし, 今なお被爆された多くの方々が苦しんでいる現実, それを肉声で伝えてくださった被爆体験者の寺本さんの語り, そして惨状を示す平和記念資料館の遺品や資料の数々……。

それらの一つ一つは, 人々の底知れない深い悲しみと怒りに満ちていた。その叫びを心で聞きながら, 原子爆弾の惨禍からよみがえった“ヒロシマ”の願いは, 核兵器のない, 戦争のない平和な世界の実現なのだ!と, 改めて思い知らされた。

その実現が夢でないという希望の光を, 私は5名の生徒たちの中に見いだしていた。さすが, 燕市を代表する中学生である。過密なスケジュールにかかわらず, 常に真剣な眼差しで, 前向きに意欲的に学び取ろうとする彼らの態度, 気持ちや考えを「しっかりした自分の言葉で」話している姿は, 実に見事であった。キラキラと眩しいばかりのその学びの姿勢に, 溢れんばかりのエネルギーと限りない可能性を感じていた。

彼らこそ, 「惨劇を繰り返さない, 平和な日本を守り続ける」メッセンジャーとして, 未来の日本 (もちろん燕市を含めて) をリードしてくれているに違いない。そう, 期待している。

そう, 確信している。

・・・世界の現実を目を向ける。毎日のように報道される戦争や紛争, 繰り返されるテロ。核兵器は, わかっているだけでも10,000発以上という絶望的な数の核弾頭が地球上に存在する。常に脅威にさらされている世界の現実……。

「平和の第一歩は, 身近な人と仲よくすることから。」と, 寺本さんは語りの最後に静かに言った。忘れられない重い一言。平和を希求する一人の人間として, 私にもできる, いつも心がけていこうと誓った。微力ながら, 平和な世界の実現に向けて……。未来を担う若者たちとともに。



## 学びの発信（参加後報告）

「ノーモアウオー」、「ノーモアヒロシマ」

終戦から **66** 年が経過した。

戦争を知らない世代である私は、愚かな争いがもたらした惨状について、ある程度は認識しているつもりでいた。しかし今回、中学生たちとともに初めて広島を訪れ、その認識の甘さを思い知らされた。

**66** 年前の **8 月 6** 日に投下された原子爆弾は、半径 **2 km** 内の街をすべて焼き尽くし、さらに広い範囲で人々へすさまじい被害を及ぼした。今なお続く被爆された方々や遺族の苦しみ、悲しみ、そして怒り。「生きているのが申し訳ない。」とおっしゃられていた被爆体験された方による講話、慰霊式並びに平和祈念式における広島市長の平和宣言やこども代表による平和への誓い、ボランティアガイドの説明を聞きながらの平和記念公園周辺見学。どの場面においても胸がしめつけられ、涙がこみあげてきた。また、タクシーの運転手も含め、出会った人の大半が被爆された方々の遺族や子孫であり、悲惨な経験をもつ、ヒロシマの歴史の伝承者であったことは、その被害の甚大さを物語るものであり、さらに私の心を突き刺した。

私にとって戦争は、自分自身の生活とはかけ離れた出来事であるという認識が頭の片隅にあったが、今日の平和な日常は、戦争によるたくさんの尊い犠牲のうえに成り立っているという事実をあらためて再確認させられた。生徒たちは各学校の代表としての大きな使命を背負い、平和への願いを体でしっかり感じ取ってくれたと思う。それ以上に、私も勉強させられた 3 日間であった。

被爆体験講話の講師がおっしゃっていた「平和の原点は、肩を寄せ合い、仲良くすること。これは誰にでもできること。」という言葉、これを日々実践していくとともに、「ノーモアウオー」、「ノーモアヒロシマ」を一人でも多くの人に伝えていきたい。



## 1 派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおりです。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意してください。

### 目的

非核平和宣言推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成することを目的とする。

### 日程

平成23年8月5日(金)から 平成23年8月7日(日)まで

### 主な活動内容

- (1) 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- (2) 広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- (3) 原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴を納める
- (4) 被爆証言講話の受講
- (5) 灯籠流しへの参加
- (6) 事後研修（8月下旬から9月にかけて事後研修として報告会を実施など）

### 行程

（広島平和記念式典派遣事業行程表のとおり）

集合：吉田庁舎第1会議室 午前7時

### 参加者名簿

氏名	性別	学校名	学年	備考
長谷川 千華	女	燕中学校	3	
宇佐美 真邑	男	小池中学校	3	
伊藤 和也	男	燕北中学校	3	
原田 真宏	男	吉田中学校	3	
遠藤 晴香	女	分水中学校	3	

### 引率者

小林 靖直	男	学校教育課
山崎 聡子	女	総務課

## 2 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動の一環として、参加者の皆さんから、次の通り役割分担をしていただきます。

役割分担の内容		人数	氏名
(1)	出発式代表あいさつ(参加に当たっての心構え)	1名	宇佐美 真邑
(2)	被爆証言講話講師へのお礼のことば	1名	伊藤 和也
(3)	ミーティング司会	1名	長谷川 千華
(4)	2日目昼食場所の選定(意見とりまとめ)	1名	原田 真宏
(5)	報告書とりまとめ(執筆分担したものととりまとめ)	1名	遠藤 晴香

## 3 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開

「国際的な視点・命の尊厳・平和の尊さ」を学び、さらに、他の生徒たちへ伝えるため、「研修の記録」、「学びの記録」、「学びの発信」という3ステップで学習活動を進めます。

### 参加前学習(研修の記録)

- (1) 行程及び資料の確認
- (2) 広島原爆投下の歴史的背景
- (3) 第二次世界大戦の戦時下の生活
- (4) 原子爆弾の被害・惨状
- (5) 今、世界のどこかでおきている戦争
- (6) 被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

全 員
長谷川 千華
宇佐美 真邑
原田 真宏
伊藤 和也
遠藤 晴香

### 参加中学習(学びの記録)

- (1) 平和記念公園
- (2) 平和記念資料館
- (3) ひろしま子ども平和議会等
- (4) 被爆証言講話
- (5) 広島平和記念式典

宇佐美 真邑
原田 真宏
長谷川 千華
遠藤 晴香
伊藤 和也

(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)

### 参加後報告(学びの発信)

参加後に報告として、次の通りとりまとめ、提出してください。

項目	説明	担当者	備考
(1) 研修の記録	期間中の主な行程についてまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真2枚)
(2) 学びの記録	見聞きして学んだことをまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真数枚)
(3) 学びの発信	参加して得たものをまとめ、発信する	各参加者全員	400字程度 (写真一枚)

#### 4 その他

##### 宿泊先施設

名 称 木松旅館

所 在 地 広島市西区己斐本町2丁目1番3号

電話番号 082-271-1424

F A X 082-271-4850

##### 服装

区分		主な活動内容	制服	私服
1日目	午前	出発～宿泊施設		
	午後	広島平和記念公園で千羽鶴を納める		
	夕方	講話受講		
2日目	午前	広島平和記念式典参加		
	午前・午後	ひろしま子ども平和議会見学		
	夕方	灯籠流し		
3日目	午後	宿泊施設～燕三条		





資料 「非核平和都市宣言」(平成18年12月25日)

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

## 被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは昭和 48 年(1973 年)に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。被爆アオギリ 2 世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切に作る心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 19 年 4 月 植樹



市役所吉田庁舎正面玄関前 (2011.8.18 撮影)



広島平和記念式典派遣事業

参加者のしおり 2011年8月5日(金)~7日(日)

燕市： 総務部総務課 教育委員会学校教育課